

「豪雨災害を乗り越えた土佐清水市」

高知県 土佐清水市長

にしむら しんいちろう
西村 伸一郎



四国の最南端に位置する土佐清水市は、黒潮が日本で一番最初に接岸します。

市のほぼ全域が「足摺宇和海国立公園」に属し、南国の太陽とコバルトブルーの豊かな海、したたる緑などの美しい自然環境と私達は共生しています。

ここには高速道路も鉄道も巨大リゾート施設もありませんが、土と潮の香りのする人情味溢れた暮らしがあります。

「ジョン万次郎中浜万次郎」は、1827年に本市中浜で漁師の子として生まれ、1841年、足摺岬沖で漁の最中にシケに遭い漂流後アメリカの捕鯨船「ジョン・ハウランド号（ウィリアム・ホイットフィールド船長）」に助けられました。

その後、日本人初のアメリカ留学生として約10年間暮らした後、日本の開国とアメリカの民主主義や技術を伝える為に、鎖国中の日本へ決死の覚悟で帰国、維新の偉人坂本龍馬をはじめ中江兆民、植木枝盛、板垣退助、岩崎弥太郎などに大きな影響を与え、また、咸臨丸の事実上の船長として再渡米し、日米友好に努めるなど幕末から明治にかけて活躍いたしました。

いかなる状況の中でも常にベストを尽くそうとする真摯な姿勢「ジョン万スピリット」で、将来を担う青少年がスケールの大きな人間として羽ばたくことを願っています。

土佐清水市は、清水という名前が示すとおり水とは縁の深いものがあります。毎年、台風シーズ

ンとなれば足摺岬が全国に放映されます。何と言っても忘れられないのは平成13年9月6日の「高知県西南部豪雨災害」の試練であります。

10時間に500mmもの集中豪雨による沢抜けにより全ての谷から土石流が発生し、山は崩れ、橋は流され、川は氾濫し、道路は川となって人家を飲み込み、田畑の土は全て海に流され、その後は土石が積みりました。

全壊18棟、半壊214棟、床上、床下浸水294棟等をはじめ、公共被害総額は232億円にものぼりました。

自然の猛威の前に人の力の小ささを思い知らされると同時に、市民はもとより全国から駆けつけていただいたボランティアの泥まみれの支援活動やその後の復興振りを目の当たりにして、人の力もまた無限であることを教わりました。

全国の皆様に改めてお礼申し上げます。

この大災害で一人の犠牲者も出さなかった自治組織と地域連帯の伝統は、今後とも受け継いでいかなければなりません。

なお、豪雨災害により流れ込んだ田畑の土がサンゴを覆った為、壊滅的な被害を受けた日本最初の海中公園「竜串湾」では、環境省直轄の竜串再生事業が導入され、15年度から3カ年の調査を経て地元住民参加の法定協議会も設立され、18年度より本格的な事業が展開されています。

豪雨災害の貴重な経験を生かし、これからも恵まれた自然景観と共生しながら、たくましく生きる土佐清水市を全国に発信したいものです。



アメリカを臨むジョン万次郎の銅像



日本で最初に黒潮が接岸する足摺岬



豪雨災害により水没した下川口